

第3章 一般概況

1 地勢

庄内圏域は、山形県の北西部に位置し、東は月山を中心とする出羽丘陵によって県内陸部と隔てられ、西は日本海に面し、北は烏海山が秋田県との境を、南は朝日山地が新潟県との境をなしています。

面積は、2,405km²で県土の約4分の1を占め、神奈川県や佐賀県とほぼ同じ面積を有しています。気候は、対馬暖流の影響を受け、内陸部よりも温暖で降雪量も少ないものの、年間を通して風が強く、特に冬は北西の季節風による地吹雪と呼ばれる風雪が発生します。



図 3-1 庄内圏域の地勢

【出典】山形県ホームページ

2 人口

庄内圏域の人口は、昭和30(1955)年の37万6千人をピークに減少し、昭和55(1980)年に一時増加に転じたものの、その後再び減少が続き、令和5(2023)年4月時点では、表3-1のとおり253,061人となっています。

表 3-1 庄内圏域の人口

市町名	総数(人)	うち男性(人)	うち女性(人)
鶴岡市	117,627	56,636	60,991
酒田市	96,628	46,360	50,268
三川町	7,357	3,576	3,781
庄内町	19,156	9,172	9,984
遊佐町	12,293	5,817	6,476
庄内圏域	253,061	121,561	131,500
山形県	1,031,642	500,197	531,445

【出典】山形県ホームページ

3 産業構造

庄内圏域の産業別就業者の割合は、図 3-2 のとおり、第 1 次産業就業者が 9.6%、第 2 次産業就業者が 28.0%、第 3 次産業就業者が 62.4%となっています。第 1 次産業従事者の割合は県全体より 0.9%高くなっています。

庄内圏域は全国有数の穀倉地帯であり、農業産出額は鶴岡市が 278.2 億円で県内 1 位、酒田市が 192.3 億円で 3 位となっています。庄内圏域の主要作物は米が最多で 289.7 億円、次いで野菜、畜産の順となっています。また、森林面積は、162,225ha で県全体の 24.0%を占めています。漁業は沿岸漁業が主力となっており、漁獲量は 2,843 トンで、生産額は 20.4 億円です。

第 2 次産業の事業所数は 600 か所で県全体の 22.2%を占め、製造品出荷額は 7,358 億円で県全体の 24.3%を占めています。主な出荷製品は「電子部品・デバイス・電子回路製造業」「化学工業」「食料品製造業」となっており、製造・加工の過程で比較的水道水を多く使用する業種となっています。

第 3 次産業の商店数は 3,391 か所で県全体の 26.5%を占め、年間商品販売額は 5,250 億円で県全体の 21.0%を占めており、商圈に関しては鶴岡市と酒田市が地域の中核都市として吸引力をもっています。

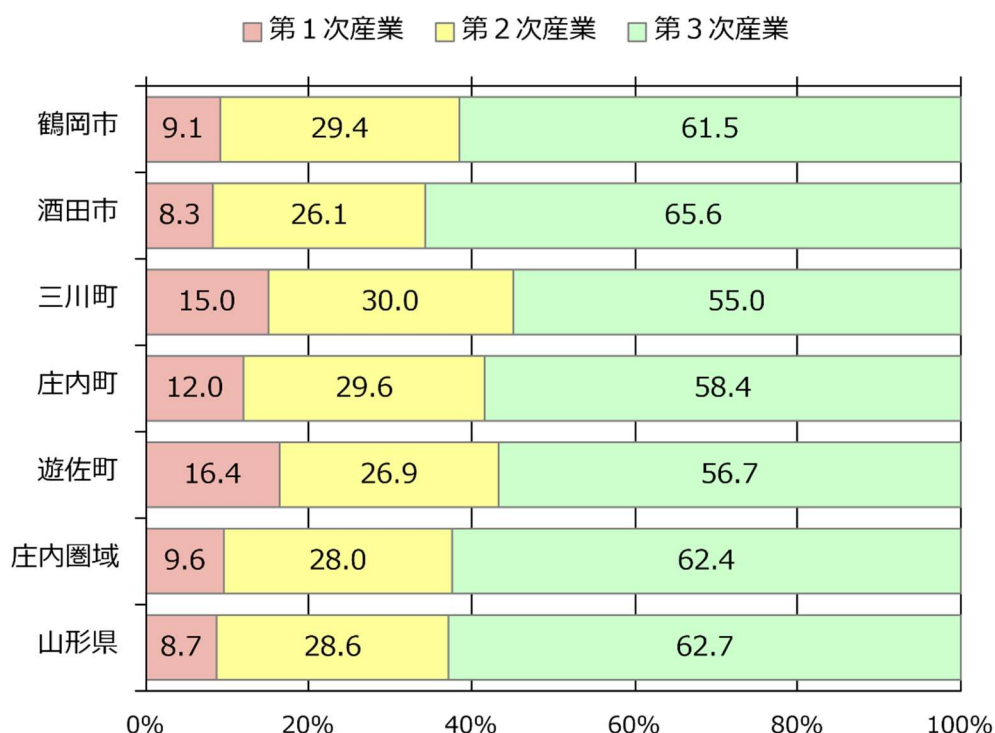


図 3-2 庄内圏域の産業別就業者の割合

【出典】山形県ホームページ、農林水産省 市町村別農業産出額 (R4)